

砂丘地域におけるハウスアスパラガスの早期成園化技術

山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

庄内地域はハウスアスパラガスの栽培面積が増加しているが、成園化まで収量が少なく、太物階級割合が低いことが課題となっている。そのため、播種時期、灌水管理、茎葉の刈取時期を改良した早期成園化技術を開発した。

研究の成果

- ① 定植前年 10 月から 1 月に播種し、3 月に定植した株について、1 日に 1～2 回程度（5～8 L/株/回）の灌水を行うことで、定植 2 年目に成園並みの 260kg/a、3 年目以降は 300kg/a 程度の収量が得られる（図 1、図 3）。
- ② 茎葉が完全に黄化した 1 月上旬に刈取りを行うことで、定植 2 年目から春期の 2 L 以上の階級割合が 3 割程度確保され、高値販売が期待できる（図 2、図 3）。

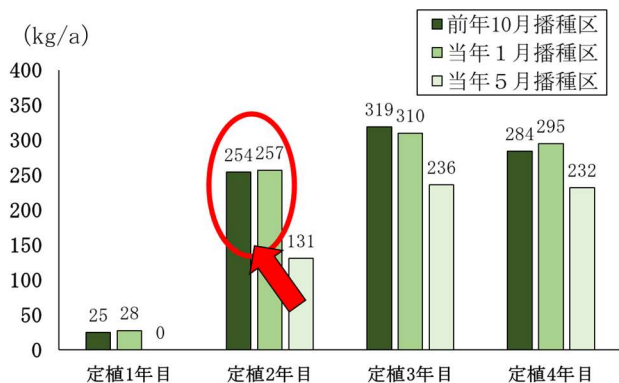


図 1 収量推移（全ての区で 1 日 1～2 回灌水）

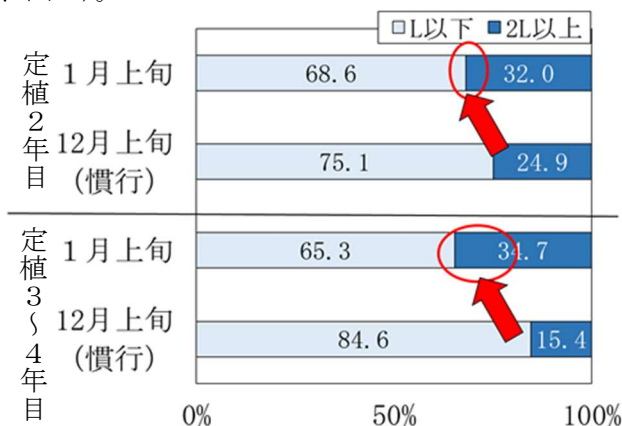


図 2 茎葉刈取時期による春期の階級別本数割合 (%)

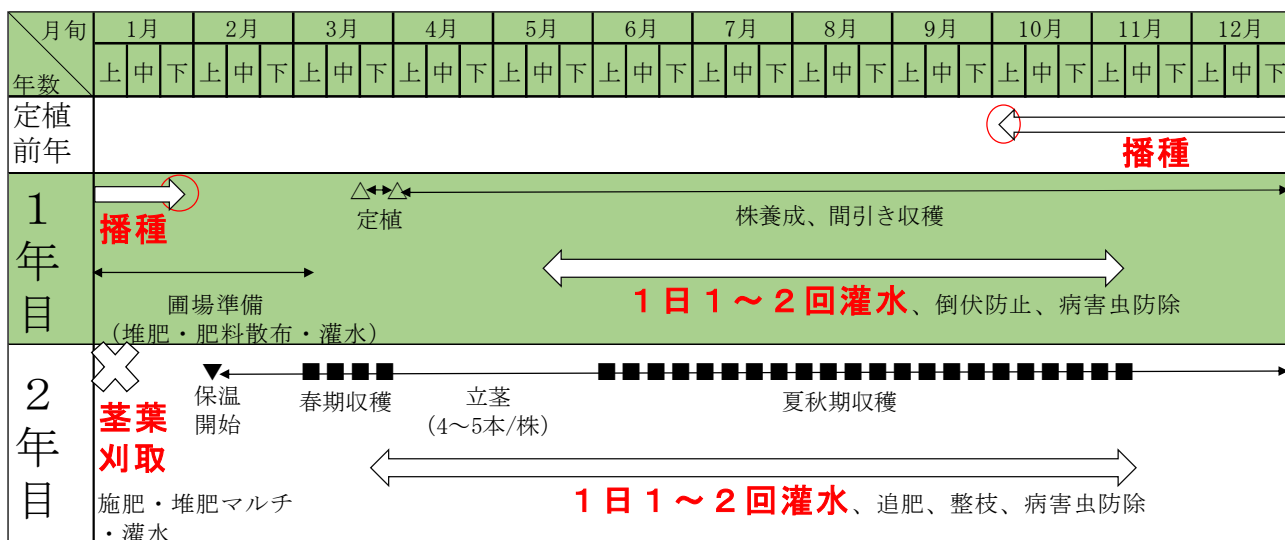


図 3 早期成園化技術導入による栽培暦